



- ・進んで学ぶ生徒(知)
- ・心豊かな生徒(徳)
- ・たくましい生徒(体)

人生の選択(判断)は、毎日培うもの!!

先日、校内をめくっていると、三年生の教室の前で硬筆の作品が展示されていました。どの作品からも、多くの生徒が丁寧に書こうとする意欲や上手に書こうとする意志が伝わり感心していました。又、同時に文章の内容にも目を引かれました。短い文章のなかでも三年生や中学生に合った内容で、私も共感しながら読ませていただきました。

この文章の中ほどから、このように書かれています。「今年は、進路選択がある。そのために何をすべきか、親や先生、先輩などに意見を聞いて参考にすることが必要だ。しかし、それ以上に大切なことは、自分で判断することだと思ふ。進路についてよく考えて、人生の選択をしたい。」という文章です。こ



こで3年生の進路選択が題材にあり、【途中略】自分の判断が大切であるということは、よく理解できます。

ふとそこで「人生の選択」か??? それを読みながら私自身の現在を振り返りました。

中学生の皆さんからみれば、50歳以上も年上の私でも、本を読んで学習したり、人と接して新たな知識や考え方を得たり、時にはAIで調べたり、更に言うなら生徒の皆さんから学び得ることもあります。そして、最終的には、自分の経験の上に新たな知識や情報を加え、自分の感性を研ぎ澄まし、最善の判断をすることを毎回心がけます。ですから、社会で生きている大人や皆さんの保護者の方も同じく毎日の生活や仕事で「判断」を繰り返して生きています。固い言い方をすれば、人は皆、毎日、一瞬一瞬「人生の選択」をし、生活しているということで3年生の重大な選択も毎日の判断を重ねた先にあることになるのです。

ですから現実的には、「判断を学ぶ」とは、AIや科学が進歩しても、判断を繰り返し学ぶことは、必要になります。すべての判断に軽重があるにしろ毎日判断を繰り返して生活しています。学校の目的は、「より良い大人になるための教育」を実践し、経験することによって変わりありません。

学校で、「判断」が必要になるところを大きく3つ場を挙げます。1、授業のとき 2、人間関係を育むとき 3、多くの人数が集い集団として目的の達成を学ぶときです。例を出すと、先日皆さんが一生懸命に取り組んだ学校総合体育大会も判断の連続であったはずで、その判断の結果を「～たら・れば」「あの時～していれば」「～だったら」などと表現したりします。判断には、成功も失敗もつきものですし、私も同様です。仕事には、責任が伴うわけですから「目標(ビジョン)を持って取り組み、成功しなければ批判を受け、生徒の成長に貢献できれば、心が穏やかになります。いずれにしても自分の判断の結果は、真摯に受け取るべきものです。

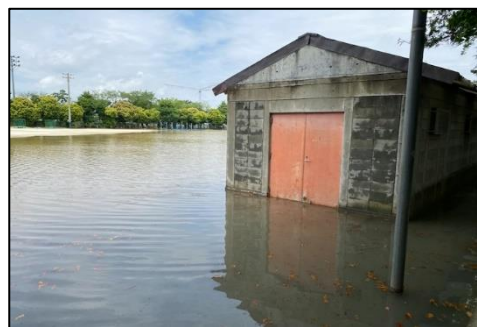
最後に「判断」を違う角度から話をします。先ほど年齢の話に少し触れました。私は、皆さんと50歳以上も違うとお話しました。教員の人生は、卒業生を出し、春が来て桜が散る季節になるとまた一つ年を重ねたなど強く感じるのです。特に私は、最近桜の花が散るとき、時が過ぎるスピードが信じられないくらい早いことにも気づかされています。若い時の私は、新学期、学校に出勤するのに気合を入れることが必要でした。若い頃、勤めていた学校は、荒れいて走るバイクの前に立ちほだかり止めたり、集団の乱闘に入って止

めるなど、瞬間的な判断を余儀なくされ、夢中で対応していた時には、何のために教員になったのだろうと悩み、学校に足が向かない日もありました。いつこんな日が明けるのだろうとも考えていました。ですから、苦しかった日々を過ごし振り返ってみても、こんなに時が早く過ぎると感じる日が来るとは、思ってもみませんでした。ひょっとすると、この経験が、今の幸せを感じる大きな糧にもなっているのかもしれない。皆さんの年齢では、この先の進学や人間関係など多くのことや、これからの人生のことを考えて心配している人も多くいるのでは、ないでしょうか。しかし、私は、今この年になっても、当たり前のように「苦しみもがき悩んだりすること、人の痛みを感じたりすること、今でも楽しいことも感動もできること、愛したり、愛されたりする幸せがあること、でも今日も生きていて、幸せと感ずること」と言うのが今の私自身の感情に一番近いかもしれません。

今、世間では、一時の感情で自らの命や他人の存在自体を認めず、一時の判断で他人を殺めたり、傷つけたり、自分を否定したり、危険な繁華街に繰り出し、表面的なやさしさをもとめたり、自分や他人を尊重せず自ら絶命したニュースを聴いたりすると、「時が来たら、苦しくても楽しいと感じる時が来る」と伝えたい。今の判断を早まらず、多くを学んでほしいと伝えたいのです。私は、満開の桜や色づく紅葉を見ることをこれからも楽しみにしています。大抵皆さんは、私よりこの先、多くの時間があると感じています。それでも一回の「判断のチャンス」を丁寧に拾い、豊かな人生を歩んでほしいと願っています。そして、私は、「すべての人が生きることの判断」に意味があることも、もっと知ってほしくて、本日お話ししました。

水没した校庭と美原中学校を見守る気持ち！！

6月3日(土)学総体直前の土曜日の朝(金曜日は、大雨)、私のもとに一報が入った。「美原中学校の校庭が水没しています。」「北高校や美原小学校がもう水が引き始めているので、何かおかしくありませんか」という連絡であった。更に「プールの機械から大きな音がして、いつもと違う様子です。」との内容である。ここから多くの方にご連絡をいただくことになる。学校の変化に気づいてくださり、見守っていただいている。防犯カメラも大切であるが、やはり学校を愛し大切に作る人の感性は、貴重である。



生徒を心配しての助言は、本当にありがたい。この日は、私は、PTA 聯合会の総会と懇親会がありスーツを着ていたので途中で中座して学校に戻り、排水路の回復に短パンで腰までつかり苦労しているところに教頭先生が駆けつけてくれ、二人で汚泥をすくった。長年の土の体積のために本来見えるべきマンホールも見つからなかったが、この日、市役所の責任者も(美原中卒)も確認していただき、業者への手配も迅速に対応していただいた。P 聯合会を中座するとき、新旧 PTA 会長より、「手伝いましょうか」と声をかけられ、本当にうれしかったが、以前にもそのような経験があったので何とかなると思いお断りした。この修復の汚泥をさらっている最中に小さな子供の声で「頑張って！！」は、何とか受け止められたが、通行人の方が私と教頭が被写体に入る水没写真を数名スマートフォンで撮られた。大意はないと思うが、日没も重なり少々力が落ちた。翌日には、市民球場側の校庭は、水が引いたもののテニスコートなど完全な回復には、至らなかった。その後、市でテニスコートを借りていただき、学校には、早々に業者が入りプールの機械も復旧、校庭にも手が入った。しかし、今後もゲリラ雷雨や、台風などが予測される。体育祭や新人戦もある。学校を見守ってくださる方ばかりに甘えてもいられない。公助をいただいたのだから自助も行わなくては、ならない。美原中学校の自助の行為を通じて、やがて美原中や地域社会をあたたく支えてくれる大人(卒業生)を輩出することが、本当の自助・共助・公助へと繋がると信じた。

【お知らせ】これから先の学校だよりにて本人の了解を得たもの以外は、個人が分かるような写真は、掲載いたしません。掲載を希望なされない方は、あらかじめお知らせいただくと助かります。